

【川辺町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等のICT環境を活用して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るとともに、主体的・対話的で深い学びがより達成できるよう授業改善に取り組むことで、児童生徒自身が学習形態や学習方法を選択し、自分自身の特性や理解度、進度に合わせ学ぶような、児童生徒が中心となった学びの姿を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に513台の端末を導入し、学校におけるネットワークの整備を進めました。また、貸出用モバイルWi-Fiルーターを準備し、学校だけでなく家庭学習にも活用できる環境整備に努めました。さらに、情報の収集・理解・整理・発信・共有を行うツールとして、1人1台端末の利活用を日常的に進めています。また、端末を家庭に持ち帰り、デジタルドリル等を用いた家庭学習に活用することで、児童生徒の学習意欲向上や学習環境の整備に取り組んでいます。

一方で、授業支援ソフトや学習支援ソフトを活用した授業づくりにおいて、学校間や教職員間で活用の差が見られます。この課題を解決するため、教職員のICT活用指導力の向上を目指し、情報部会で各学校の実践例を共有する機会や研修会の取り組みを充実させていきたいと考えています。

3. 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用を推進していく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

端末の日常的な利活用に係るICT研修の充実を図るとともに、デジタル教科書や電子黒板の活用を推進していきます。また、ICT支援員を継続的に配置し、ICT活用に関する各種支援や授業実践事例の情報を共有し、充実したサポート体制を構築します。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

本町では、児童生徒が課題意識を持ちながら主体的に授業に取り組み、仲間との対話を通じて学びを深める授業づくりを推進しています。その一環として、「学習支援ソフト」や「電子黒板」を活用し、1人1台端末を効果的に利用しています。

学習支援ソフトは、学習状況のリアルタイム把握に加え、調べる、考えをまとめる、意見を交換する場面を支援し、協働的な学びを深めます。また、学習支援ソフトの活用により、

児童生徒はそれぞれの理解度や知的好奇心に応じて、自分に適した学習内容を選びながら、積極的に取り組む個別最適な学びをより一層充実させていきます。一方、電子黒板は発表や表現の場面を支援し、児童生徒が自身の特性や理解度、進度に応じた課題に取り組める環境を整えています。

(3) 学びの保障について

G I G A第2期においても、日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でI C Tを活用し、学びを止めない学習環境を整備してきます。